



明治41(1908)年、栃木県に生まれる。幼少の頃から画才を発揮し、若くして南画家として知られる。18歳、東京美術学校に入学するが2ヶ月で中退。以後、中央画壇と一線を画し、50歳を過ぎて独り奄美へ移住。紬工場で染色工として働きながら絵を描き続けた。東京、千葉を経て、この奄美の地で亜熱帯の鳥や自然を描き日本画の新境地を開いたが、作品を発表することなく69歳の生涯を終えた。

### 田中一村 年譜

明治 41年 1908年	7月22日、栃木に生まれる。父・彌吉(彫刻家, 号「稲村」)、母・セイ
大正 2年 1913年 5歳	東京に転居する。
4年 1915年 7歳	父から号「米邨」を与えられる。
14年 1925年 17歳	『全国美術家名鑑』の「超然並びに余技」の項に田中米邨の名が掲載される。
15年 1926年 18歳	東京美術学校日本画科に入学するが、2ヶ月で退学する。 12月、「田中米邨画伯賛奨会」が開かれる。
昭和 2年 1927年 19歳	弟・芳雄逝去。 20歳で弟・実と母を、27歳で父と弟・明を失う。
6年 1931年 23歳	本道と信ずる絵《水辺にめだか枯蓮と落の臺》を描くが、賛同を得られなかった。
13年 1938年 30歳	親戚を頼って千葉市千葉寺に姉、妹、祖母と転居する。
22年 1947年 39歳	青龍展に《白い花》を出品し、入選。画号を「米邨」から「柳一村」に改号する。
23年 1948年 40歳	青龍展に《秋晴》を出品し落選する。参考作品《波》の入選を辞退する。 画号を「柳一村」から「田中一村」に改号する。
30年 1955年 47歳	3月から5月、石川県「やわらぎの郷」の聖徳太子殿天井画制作のために滞在する。 6月、九州、四国、紀州を旅する。
33年 1958年 50歳	12月13日、奄美大島名瀬市に到着する。与論島、沖永良部島にも足を伸ばす。
34年 1959年 51歳	国立療養所奄美和光園の官舎に住む。
35年 1960年 52歳	一時千葉に帰り襖絵を制作する。
36年 1961年 53歳	4月、奄美に戻り、12月、有屋の一戸建てを借りて住む。
37年 1962年 54歳	名瀬市大熊の紬工場で染色工として働き始める。 画業の計画「5年働いて3年描き、2年働いて個展の費用をつくり、千葉で個展を開く。」を立てる。
40年 1965年 57歳	姉・喜美子逝去。
42年 1967年 59歳	5年働いた紬工場を辞め、3年間絵画制作に専念する。
45年 1970年 62歳	計画通り、再び紬工場で働く。しかし、2年後に個展は開かず制作に取り組む。
51年 1976年 68歳	6月下旬、畑仕事中に脳梗塞(もしくは脳溢血)で倒れ、1週間入院する。
52年 1977年 69歳	9月1日、和光園近くの一軒家に移る。「御殿」のようだと言える。 9月11日、夕食の準備中に心不全で倒れ、69年の生涯を閉じる。
54年 1979年	名瀬市中央公民館にて3日間「田中一村画伯遺作展」が開催される。
59年 1984年	NHK教育テレビ「日曜美術館」で「黒潮の画譜～異端の画家・田中一村」が放映される。
平成 13年 2001年	9月30日田中一村記念美術館開館